

自立活動だより

平成27年6月発行

抽出指導と定期相談が始まるまでの4月5月の間、抽出担当者は自立活動相談として個別の相談を受けたり、各クラスを回って子どもの様子を見せていただいたりして、子どもの実態把握や支援方法について話し合いました。今回の自立活動だよりでは、セクション3（自立活動6区分の中の「コミュニケーション」や「人間関係の形成」）であった相談やその支援方法についていくつか紹介させていただきたいと思います。



1. 明瞭な発音を目指して普段から取り組める内容について

伝えたい気持ちはたくさんあるのに、言葉が不明瞭なために相手に伝わり難くて困っている子どもは少なくありません。その原因として①唇や舌の動き ②呼気吸気のコントロール ③音韻意識に課題があることが多いです。

①については、頬や唇周辺の動きが硬いことや、顎関節や舌先の動きがスムーズに行えないこと等が原因と思われます。発音練習の前に鏡を見ながら顔や頭のマッサージ、「あんあん…」と唇の連続開閉（無理しない程度に）や舌先を上下左右に動かす練習（難しい時は飴やジャム、スプーン等目印にして）や口のじゃんけん、あっかんべーの真似っこ等楽しく活動することで唇や舌のスムーズな動きを促していきます。

②については、「あー」「いー」等どちらが長く言えるかの競争や大きなシャボン玉作り、ピン球転がし等遊びの中で、比較的長い単語や文を話すのに必要な息の使い方を学びます。

③については、「あ・め」等1音ずつ手拍子して読む練習やすごろく等を行うことで、1音ずつ丁寧に発音する練習をしていきます。またかるたやしりとり等行う中で、始まりの音（語頭）や終わりの音（語尾）等を意識し聞く力を身に着けることができます。



2. 聞き取る力に課題がある子どもへの支援について

聴覚に問題はないけれど、ざわざわした中で先生の話だけを聞き取ることが苦手だったり、自分に言われている話に気付くことができずに「ちゃんと話を聞きなさい」と注意されてしまう子どもがいます。また話を聞いていても内容が全部覚えきれずに違うことをして、もう一度やり直し…となり困っている子どもがいます。

このような場合、私たち大人が子どもに話しかける時に、まず注目を促してから話を始め、話す内容や指示は1回につき1つのことを、簡潔に具体的に子どもになじみのある言葉で話しかけることで改善されることがあります。その時に子どもによっては絵や写真、サインやジェスチャー、文字等視覚からの情報を添えると理解しやすい場合があります。行く場所や買う物等の写真をスマホで見せて話していると教えてくれたお母さんもいました。

3. 伝えたいことがあるのに、伝えることが難しい子どもへの支援について

気持ちを伝えたくても伝えられなくて泣くことや怒ること等でわかってもらおうとしている子どもがいます。この方法では正しく伝えられずストレスや不満が積もっていくばかりです。

そのような子どもの支援を考える時、まず「この子が今できることや得意なことは何だろう？」と担任の先生と一緒に探し、子どもに合ったコミュニケーション手段を考えていきます。

言葉が未習得の子どもで、視線やクレーン、指さしや手さし等の動きが見られる場合、その動作に対して大人が「〇〇がほしいんだね」等言語化することで、子どもが示したものが相手に正しく伝わったという成功体験を積み重ねることができます。

言葉はあるけど不明瞭で伝わりにくい場合や語彙が少ない場合、模倣が得意であれば大人と一緒に言葉を添えながらサインで伝える練習をしています。また写真や絵の理解が得意な子どもについては、PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）等で言葉の補助としてカードを使い相手に伝える練習をしています。ひらがなを学習中の場合は、ひらがな50音表の文字を指差したり、書いて伝えられる場合は自分で書いた文字を読んで伝える方法もあります。



また、話すことはできるのだけれど、一方的に話すために友だちとのやりとりが難しい子どもや、相手に届かずに独り言のように思われてしまう子どもの場合、ゲームや遊び、ロールプレイを通じて、「〇〇さん、～をください」「はいどうぞ」「ありがとう」等、相手の名前を呼んでから話しかけること等、ルールを作りながらやりとりの練習をしています。

言いたいことはあるのに、言葉が思いつかない、思い出しにくい子どもには、普段からまわりの大人が、「〇〇さん、～しているね。」「今、～な気持ちだね。」等子どもの様子や気持ちを代弁して言語化して伝えてあげることで言葉と状況等を繋げていくことができます。

これらの学習は楽しい雰囲気の中で、子どもの伝えたいという気持ちを大切に、伝わる楽しみや人と繋がる喜びをたくさん体験させてこそ、コミュニケーションの力が育っていくと思います。

今回は自活相談の一部を紹介させていただきました。「コミュニケーション」や「人間関係の形成」としても子どもの実態や環境等によってそれぞれ違ってきます。子ども一人ひとりに合った表現方法について、これからも保護者の方々や先生方と一緒に考えていけたらと思っています。3つのセクションとも、自活相談については定期相談以外に随時受け付けておりますので、気になることがありましたら、どんなことでもお声をかけていただけたら嬉しいです。これからもよろしくお願いします。

